愛板

愛知県
板金工業組合

発行広報委員会
名古屋市昭和区
北山町3－8－6
電話 732-1226

第二回積算講習実施

"数字に強い"板金業者をめざして

10月23日岡崎工学院において「技術研究委員会」担当による『積算・図面読み取り法』の講習を開催した。

今回初めて6名の女性が出席され、合わせて54名が秋の一日を和気藹々の雰囲気の中で熱心に受講された。

今回の講習の目的は、我々板金業者が適正な営利を目的にした経営を続けるためには、中心になる大きな二本の柱が必要である。

その一本が優秀な板金施工・加工技術であり、もう一本が正確な積算の技術である。

そして積算の根拠となるのが正しい図面の読み取り法と言える。

それらの事を踏まえて、正しい計算式による計算術を体得して貰うのが狙いである。

元来、板金業者は家内工業的な感覚が強く、計算においてもどんぶり勘定的なところが多かった、つまり金儲けはしたいのだが、計算の根拠は曖昧で過ぎてきたと思う。

しかし近年、建築物の進化に伴い、多品種・多様化が一般的になり情報化と共に、より正確な積算が要求される様になり、時代に対応できる体制づくりが急務である。

第一回目の昨年は、グループ討議により、年間所得目標、年間労働日数、各種保険、諸手当等に分けて計算し、人件費算出の仕方を学んだ。今回は前回の資料を基に、主材料、副資材、人件費等を係数管理的に算出して単価設定する方法を、屋根軒樋工事の例題を用いて実習した。

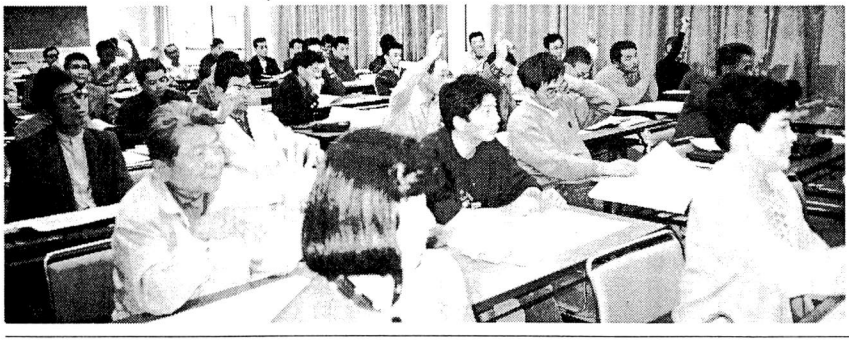
午後より図面の見方について説明を聞いた後、グループに分かれて図面より数量の拾いだし実習に取り組む。

図面に三角スケールで計測して拾い出す人、図面表示の数字から計算による数量算出する人、それぞれ算出した数量についてグループで違いを話し合う。

後の総括で高柳副委員長より正確に算出する計算式の説明もされて、受講者には意義深い一日であった。

いずれにしても、図面より正確な数量の拾い出し、正確な計算をして、適正な利益を得るために、自信を持った単価設定ができる様、積算技術習得に鋭意努力され、数字に強い、頭のいい板金業者に変身される事を願っている。

(S)



保証事業委員会発足!!

愛知県板では、事業の最優先課題としている『保証制度』の充実を図るため、10月15日保証事業委員会を発足させ、委員長に平野理事長を選び構成委員は事務局を含め10名でスタートした。

先ず愛板276号で説明した。先進県である、滋賀県板での実情視察の結果を踏まえ、これらを参考にして、愛知県板特有の問題点を挙げ、障害となっている事項を抽出し次の様な内容を提示し改善並びに推進する事となった。

◎保証制度の問題点・改善策・普及策について協議した。

これらの問題点を解決するには、適用店の拡大と共に、資格取得のための保証対象工事に関する講習が基本となる。従来の四科目の講習をクリアーしている組合員は無条件で適用店の資格が付与される事は周知のとおりである。

運営上組合員から簡素化の要望が強く、今回からは簡素化に重点を置き実施する事になる。

改善策として、

一、鋼板製屋根構法標準
一、銅屋根標準工法

の二科目をクリアーしている組合員は適用とし、未受講者は将来受講することによって付与される。早急な対応が望まれる。

実施に当たっては検査員の問題が浮上したがこれらの組織は同業者・同志の集団であり、検査員が検査するのは社会通念上常識と言えよう。しかし費用、精神的負担、日程の調整など山積した問題点は多く、多くは自分の価値観を覗かれ、指摘される事は好ましくなく自分の施工した工事は自分で責任を持つのは当然であり、責任施工の意義からも当然の事と言えよう。また討議の中で、それぞれの適用店が施工する工事の際元請けさんに信頼を得るためにも責任施工による工事である旨の表示板を掲げるのも一つの方策として話題となった。

これらを実施するに当たり、絶えず品質管理を重点目標に掲げ、時代の変遷に遅れる事なく、定期的に講習会を義務付けし技術の錬磨に精進するならば、収穫は大であろう。

一、保証制度適用の店
資格取得講習会の実施
二、保証制度適用の店
資格保有者講習の実施
（三年毎）
三、検査員資格者講習
の実施（三年毎）

但し、二、三、については受講しなければ、資格を失うことになる。

現在数多くの組合員以外の同業者の営業活動が盛んで業界に浸透している状況である。

この様な現状を打破するための生き残り戦術として、組合員にメリットを与える施策が求められる時代、積極的にこの保証制度を更めて認識し、推進し普及を図り、組合員でなければの利点を活用し、自らが最寄りの出先機関、市町村・設計事務所・発注工務店・民間の発注者など多方面に対して『保証制度』のPRに力を注いで、少しでもお客様の御理解を得て採用される様な配慮が必要だと考える。

今後の充実と進展を願い、企画が空転しない様、中身の濃い制度が実施される事を望むものです。

沼澤

第14回全日本板金工業組合連合会（全板連）青年部研究会『あすなろ研究会』に参加して

平成5年10月24日・25日の両日、長野県・戸倉上山田温泉ホテル『圓山荘』において第14回全板連青年部研究会『あすなろ研究会』が開催されました。この研究会の目的は、建築板金業界の在るべき姿を構築し、新規入職者が安心して生活できる環境作りを促進する為、前年に引続き『経営と雇用の改善』について研究する。また、メーカーが展示する建築板金用材料、工具等の活用についても検討する。というものです。

愛板青年部からは、伊藤元裕君（東三）・津田雅章君（東三）・松井繁君（豊田）・松井祐治君（豊田）・金澤厚博君（西春）の5名が出席しました。

勝又全板連青年部部長の挨拶で始まった開講式は、臼井全板連理事長・別井大阪府板理事長（青年部担当）・地元、畠山長野県板理事長の挨拶と続きました。次に、平成4年度研究会のまとめを受けて『時間短縮をいかに進めるか』についてパネラーによる事例発表があり、愛板からは

高柳一男氏（岡崎）がパネラーとして参加され、自社の時間短縮の在り方・進め方について発表されました。

続いて左記のように社員数・事業所別にグループわけをして討論会に入りました。

▼グループ　内容▲

A－1　一人親方
A－2　一人親方
B－1　親1・子1
B－2　親1・子1
C　親1・子2～4
D－1　従業員2～4
D－2　従業員2～4
D－3　従業員5～10
E－1　従業員5～10
E－2　従業員10～20
F・G合同　従業員20以上

H　女性

自分はB－2グループを選びました。討論会では、まず始めにテーマを決め話し合いを始めました。B－2グループでは『雇用改善、魅力ある職場環境作り』及び『若年者の人材育成の充実』の二つをテーマとしました。親、子で仕事をしているグループであるため、親が、っまで働けるか分からない・従業員は欲しいが、どうしたらよいか分からない・従業員がいたが、辞めてしまった等の意見が出されました。二日間の話し合いのまとめとして、①従業員を確保する為のカンフル剤（速攻性をもった）は無いので自分自身が積極的に外に対して働き掛ける。②女性の板金業界への進出を促すには、業界のイメージアップが必要。③板金業界のPR・イメージアップ・職業訓練校の整備は親組合バックアップが必要。④現在、従業員を使っている事業所から講師を招いて講習会を行う。（各県単位で）などの結論になりました。二日目の後半において全体討論会がもたれ各グループ別の代表者による意見の発表が行われました。この研究会で特徴だったのは、女性のみのグループが一つでき、女性の代表が全体討論会で意見を述べられたことです。

全国の若い同業者と話し合いの場が持てるこのような研究会には積極的に参加したいと思います。豊田　松井

支部だより

産業まつり

知多市在住組合員により

◎産業まつりに献身的な活動！

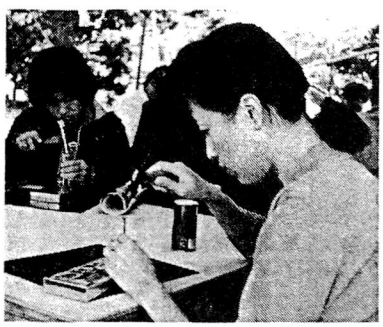
知多市では恒例になっている産業まつりが、去る10月23・24日の両日、絶好の晴天に恵まれ、盛大な催しとなった。地元で生産される農工商による製品の販売はもとより、色々なイベントが催され、多くの市民から歓待を受けた、又、同じ都市名によりロシア共和国チタ市から友好訪問団を招き、ランチタイム会を設け、それぞれの国同士、舌鼓を味ったとの事、日・ロ友好のかけはしとなり、国際交流の親善の場となった。

当知多市在住の組合員の献身的な活動が話題となった。それは日頃精励された技術、技能を生かし、亜鉛トタンによる「チリトリ」の製作販売により、またたく間に品不足が生じる程最高潮となった。

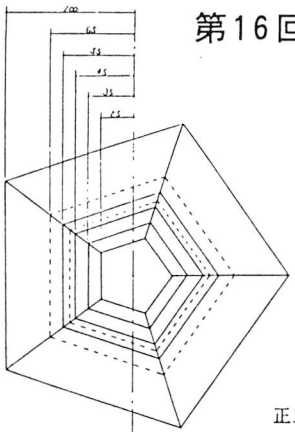
又、メインとして昨年に続き好評だった、銅板による表札の実技により打出工法の採用で参加者の目を引き、小学生から老若男女に至るまでの参加で、次々に試作され、出来上る自信作に笑顔が満ちあふれる光景は、すばらしく印象的だった。

これらの盛況に対し市商工会より賞賛の的となり、献身的なボランティア活動に頭の下る思いで、それぞれが交代で参加し、一般市民に理解が得られ、町の板金屋さんの存在も認められる絶好の「チャンス」すべてに受注に繋がれば一石二鳥ともいえよう。今後共地区組合員の発展を期待する。

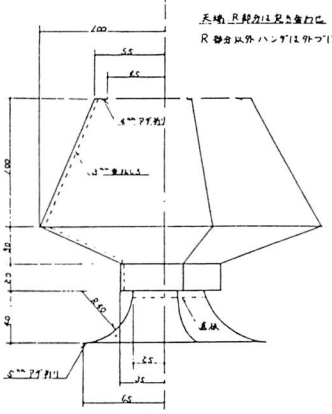
沼澤



第16回全板連青年部全国技能競技大会課題



正五角形



『花　器』

左記により図に示す製品の展開図を描き、銅板を使用して制作しなさい。

1．競技時間　標準時間：3時間30分　打切時間：4時間00分

2．支給する材料　製図用ケント紙1枚　A2判（594×420mm）
銅板1枚　0.35×360×1,200mm

3．会場で準備するもの
Ⅰ.折台（木台つき）　Ⅱ.ため棒台　Ⅲ.七輪　Ⅳ.木炭　Ⅴ.塩酸・フラックス
Ⅵ.ハンダ　Ⅶ.ウエス　Ⅷ.合板（床敷用）　Ⅸ.ガムテープ

4．選手が持参するもの
Ⅰ．パイプ（ため棒、外径は任意）
Ⅱ．製図用具及びT定規
但し、製図板は会場でも準備します。
Ⅲ．上記以外に制作上、必要な工具一式
但し、駒の爪は面の寸法が61×76mm以内のものとし、溝タガネ・クモ型定規・治具とみなされるもの・型板類は持ちこみ禁止

5．仕　様
1）課題の図は第三角法によるものとし、寸法は外側寸法です。
2）製図（展開に必要な投影図・展開図）は、ケント紙に描いてください。
3）展開図は5面の内1面を描けば良い。（ただし、1面は全て描くこと。）
4）展開図を材料に写す場合、それを切り抜いて、ゲージ代りに使用しても、ポンチ、けがき針等を使用してもかまいませんが、作業終了時において図面は提出してもらいます。
5）けがき線が作品の表面に、出ないように注意してください。
6）作品には『やすり』の使用を禁止します。
7）作品の水洗い、ワックスがけは禁止。

6．注意事項
1）作業の服装は、作業に適したものを着用して下さい。
2）標準時間を超えて作業を行った場合は、超過時間に応じて減点します。

第4回日板協青年部全国建築技術コンクール課題

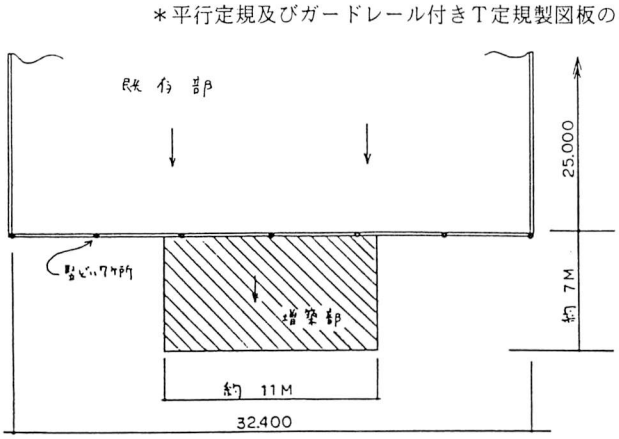
1．課題　『A工場の増築工事の屋根および外壁工事』の施工図を作図する。
Ⅰ）建物の構造は鉄骨造とし、屋根の詳しい形状等必要な条件はコンクール当日指定する。
Ⅱ）必要とする作図部分は当日指定する。
Ⅲ）添付概略図に示すように既存工場に増築工事を行う。
現時点で下記の仕様が判明している。
□既存部□　屋　根：W500タイプ折板（板厚 0.8mm片流れ、勾配 3/100）　壁　：角波山高 20mm
軒どい：塩ビ角どい 200W×150H　竪どい：VU125×7ヶ所
□増築部□　屋　根：600タイプ折板（板厚 0.8mm、勾配 5/100）　壁　：角波山高 20mm
既存部と増築部の接合面は、エキスパンションジョイントとする。

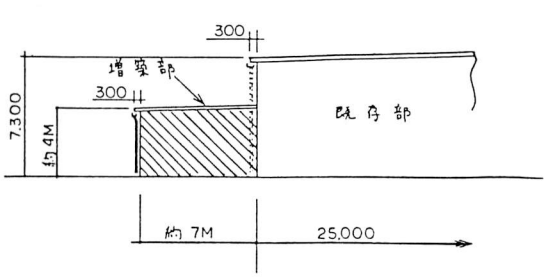
2．競技時間　『3時間45分』

3．支給する材料　『製図用紙』A2サイズのセクションペーパー　2枚（提出用と検討用）

4．選手が持参するもの『製図用具一式及びT定規』但し、製図板は会場でも準備しますが、携帯型平行定規、ドラフター類の持ち込みは一切禁止します。

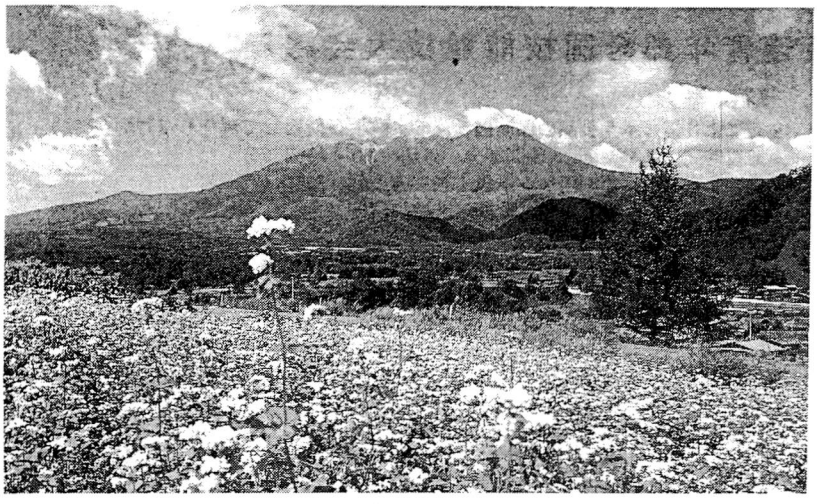
5．注意事項　＊図面作成に関した参考資料及び手帳、メモ用紙等は会場への持ち込み不可。
＊平行定規及びガードレール付きT定規製図板の使用禁止。　＊製図板を傾けるための台の使用は可。





編集後記

木曽馬とそばの故郷《開田高原》



冷夏もいつしか秋風を感じる様になり、各地から紅葉の便りが聞かれる頃となった。

慢性的な人手不足で仕事に追われ、組合関連の用事も次々と計画され、おまけに税務調査までやって来て気の休まる時がないのだが、テレビや新聞で「山々が色づき始めた」とのニュースを見聞きすると、居ても立っても居られなくなるのは私の悪いクセである。

でも天気のいい休日には、紅葉や新雪を見に出掛けて一日を過すと、家でゴロゴロして居るよりよほど心身共にリフレッシュし、明日からへのすばらしい活力回復剤になるのであるから、これが私流の健康維持管理法なのかも知れない。それだから、一年中今度の休日はどこへ出かけようかと思い巡らしているのである。そして春夏秋冬それぞれの季節に必ず行く所が何か所か有るのだが、今回は秋の一日を「新そばと紅葉と新雪と温泉」を目的に「開田高原」を訪れた。秋の開田高原は私のお気に入りの一つである。中央自動車道中津川ICを出てから国道19号線で長野方面に走り木曽福島市内を経て約1時間30分で到着する。

数年前に村の入口にトンネルが抜け新国道も完成して時間が短縮されるようになったが、私は途中から旧国道に入り、地蔵峠で開田村を一望し、すこし下った展望台から御嶽山との再会を楽しむ。共にパノラマで展望できる全景が素晴らしい。開田高原は「長野県木曽郡開田村」にあり、御嶽山の麓に大きく広がる緑豊かな自然の中に、古屋敷・把ノ沢・下条・越・下向の各地区の集落が点在して、村全体を「開田高原」と呼ばれている。この開田村は山里で有りながら、村起こしには精力的に取り組んでおり、ふるさと広場・郷土館を中心に、そば道場・野外音楽堂・テニスコート・パターゴルフ場・考古博物館・総合スポーツセンター・キャンプ場・渓流釣り・などが美しい景観を損なわないよう自然の中に整備されている。

また近くにはスキー場やカントリークラブも有り、四季折々みんなで楽しめる里でもある。開田村郷土館には木曽馬最後の純血種「第三春山号」の剝製が目をひく。木曽馬牧場には夏の間、木曽馬が放牧されており農耕馬特有のずんぐりボディーに短足型、気は優しくて力持ち、人なつこい表情はホント可愛いい。現在、春山号の血を引く子孫三十数頭が保存会の人たちの手で大切に飼育されている。丸山観音のそばに、若手経営者が力をそそぐブルーベリー農園がありブルーベリー狩りが楽しめる。今年の収穫も終りに近く、我々が訪れた日に運良く無料開放しており、甘酸っぱいブルーベリーを賞味せて貰った。帰り際に自家製ブルーベリージャムを買い求めたついでに、すごく感じのいい若者経営者兄妹とブルーベリーに懸ける意気込みや山里の暮らしなど話に花が咲き、地元の人といい触れ合いができた。

開田高原の四季には可憐な花が彩りを添え、四月頃から十月ころまで、コブシや山桜・水芭蕉・れんげつつじ・そばの花・忘れな草・コスモスなどが御嶽山の眺望と解け合って山里の景観をいっそう引き立てている。毎年十月第三土・日曜日にはふるさと広場で「開田高原そば祭り」が開かれ、大勢の客で賑わう。開田村には旅館・民宿が二十七軒、食堂・喫茶が十七軒あり、名物中の名物である「そば」はどの旅館・民宿でも出してくれるし「そば処○○屋」と蕎麦だけを売り物にしている店も何軒かある。名古屋や岐阜あたりからわざわざ食べに来る位だから、どの店もうまいのは確かだろう。私は開田に行く度に別の店で味わってみて気に入った店を開拓しているのだが、行きつけにしている店は「嶽見旅館」が旅館の敷地内で開いているそば処が一番と思う。食事時で店が立て込んで来ると旅館の座敷へ通して食べさせてくれるのも嬉しい。地粉100%で腰のある少し黒めのそばは「そば通」にはやめられない味であるし「新そば」の香りはバツグンである。

そばに満足し、終りに近づいた「忘れな草」の可憐な花を見て、赤や黄色に色づいた山々と新雪が陽光に映える雄大な御嶽山に素晴らしいを連発しながら、最後は温泉にはいる。

昨年「御嶽明神温泉やまゆり荘」が開設され、木立に溶け込んだ落ち着いた造りがいい。食堂・露天風呂もあり、入場料500円、一日ゆっくり過ごせる。湯は薄い褐色で硫酸塩温泉。神経痛・筋肉痛・関節痛・慢性消化器病などに効果があるそうだ。一日中歩き回った疲れを温泉で癒し元気回復。高原野菜の土付きの大根・キャベツ・トウモロコシ・きのこをみやげに、安全運転で帰路につく。今日もまた楽しい一日だった。

十月二十九日晴(金)
二七八号編集会議
委員　六名　出席
午後五時終了
(S)